

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	[上位目標]イラク南部バスラ県の小学校において、教育に関連する諸問題に対し、校長、教職員、親、地域住民、子どもが協力して、自ら解決にあたることで、子どもの学習環境が持続的に改善される。 [事業目標]本報告書の報告対象である第2期事業では、第1期に立ち上げた学校運営委員会や子ども会の活動、また、その関係者の能力を強化し、「様々な関係者の参加・協力のもとで実施される活動によって、実際に学習環境が大幅に改善されること」を目標とする。今後、第3期事業では、組織や関係者、活動の更なる強化や活動の活性化とともに、各組織のネットワーク化を行い、「様々な関係者の参加・協力のもとで実施される学校運営・改善が継続して行われる活動として定着すること」を目標とする。さらに、事業の最終期となる第4期事業では、第1期から第3期までのモデルや経験が事業の直接的な支援対象校以外にも普及し、「様々な関係者の参加・協力のもとで行われる学校運営・改善がより多くの学校で実施されること」を目標とする。
(2) 事業内容	第1期事業では、学校運営委員会や子ども会を設置し、教職員や親、地域住民、子どもなど、各関係者の学校運営・改善に対する意識向上に取り組み、学校運営改善活動への協力や参加が拡大されるように活動を行った。第2期事業では、これら関係者の参加・協力のもとで実施される学校運営改善活動が強化され、子どもの学習環境が持続的に改善されるよう、1)様々な関係者の意識向上と協力強化、2)学習環境の整備、3)学校における「子どもの参加」の促進の3つの軸に沿った活動を行っている。これまで実施した活動について、申請書への記載に合わせて報告する。 なお、以下に記載する通り、いくつかの活動に遅れが生じているが、第二期事業完了予定日までに遅れは取り戻すことができる見込みである。活動に遅れが生じた経緯、今後の対応は下記の通り。 - ビザ発行に問題が生じ、現地事業責任者と招聘予定の研修講師の事業地出張が困難となった。現在、当問題は解決済みであり、以下の活動については時期を変更して実施できるように計画を変更した。 (1-2. 教育局職員の意識向上・能力向上<学校運営委員会を通じた学校改善ワークショップ>、3-4. 教育局職員の理解促進<子どもの参加ワークショップ(トレーナー向け)及び、子どもの参加セッション(教育局職員向け)>) - 子ども会のメンバーを大幅に変更することとしたため(9月から新年度が始まり、卒業や入学によって生徒が入れ替わったことを機に、改めて子ども会への希望者を募った)、子ども会の活動と連携することでより高い成果が期待される活動については、新しい子ども会の子どもの意識が向上してくる時期に実施することとした。(2-2. 清掃と維持管理<衛生教育研修>、3-5. 親・地域住民の理解促進<子ども会イベントの実施>) - 学校施設修築において、工事の細部の質に関して指摘をしたり、追加、修正作業を建築業者へ依頼したため、修築の完了が計画よりも

遅くなった。学校備品、ツールキット等の調達、配布を工事完了後に予定していたため、備品配布実施に多少の遅れがでた。既に調達準備、配布手順やスケジュールは整っており、1月には配布を開始する予定となっている。(2-3. 学校備品供与<学校備品(家具類)の供与>)

1. 様々な関係者の意識向上と協力強化

学校運営委員会の代表者35名が参加した評価能力向上ワークショップと第1期に実施をした学校改善活動の学校運営委員会による自己評価を経て、学校運営委員会が学校改善活動を行う能力が向上したことが主な成果である。また、12の全対象施設で実施され、合計1,075名の関係者が出席した学校改善活動報告会にて学校運営委員会とその活動に関する発表が行われたことにより、学校関係者の間で学校運営委員会の認知度が高まっており、今後の活動へより多くの関係者の参加や支援を期待できるようになった。

1-1. 学校運営委員会の能力向上・活動支援

- 学校運営委員会活動支援

当団体スタッフが各学校を訪問し、学校修復をはじめとする学校改善計画の実施、定期的な会合開催などに対して細やかな指導やフォローアップを行っており、これまで12の学校運営委員会にて合計54回の会合のファシリテーションを行った。また、下記の評価能力向上ワークショップ後には、学校運営委員会による学校改善活動の自己評価を支援し、全ての学校運営委員会が指標に基づく評価やケースストーリー調査による自己評価を完了した。現在、第1期事業に引き続き2周目の学校改善活動サイクル(計画立案、活動実施、評価等)の開始に向け、最初のステップとなる学校運営委員会の再編成(委員会の目的やルールの再検討、委員の選定等)を支援している。

- 評価能力向上ワークショップ実施

学校運営委員会が自らの活動を見直し、持続的に活動を改善する能力を身につけることを目的に、10月17、18日に2日間のワークショップを行い、各学校運営委員会の代表者合計35名(及び、当団体スタッフ4名)が参加した。現地事業責任者が講師となって、評価に関する講義、実際の評価時にモデルとして使用できるような評価項目(成果、協力、持続性など6項目)や指標の作成、また、学校運営委員会自体を評価する実習を行うなど、実践的なグループワークを行った。ワークショップ後のアンケート調査では、「研修に満足しているか」という問いに対し、100%の参加者が「満足している」と回答している。また、研修内容の理解などに関する質問についても同様の回答が得られている。

1-2. 教育局職員の意識向上・能力向上

- 「学校運営委員会を通じた学校改善」ワークショップ実施

12月に1回のワークショップ実施を予定していたが、現地事業責任者のバス出張が困難であったため、2月または3月に延期することを計画している。

1-3. 親・地域住民の意識向上

- 学校改善活動報告会開催支援

学校運営委員会とその活動内容が広く周知され、活動への参加や協力が更に増えることを目的に、親、教職員や地域住民に向けた報告会を各学校運営委員会とともに実施した。対象全ての学校運営委員会が報告会を完了しており、それぞれ平均 90 名、合計 1,075 名が出席した。報告会では、前年度から報告会までに行われた活動の実績とその評価結果、今後の活動予定について発表した。また、本事業の説明、学校改善活動への参加や子どもの参加の意義等については当団体スタッフが発表した。親からは『学校運営委員会の活動を始めて知った。これからは自分も活動に協力していきたい』という声が聞かれた。

2. 学習環境の整備

19 校が使用する 11 の学校施設*において、学校運営委員会を通じて計画された校舎修築が完了したことにより、学校の物理的環境が大幅に改善したことが主な成果である。

*本事業の対象校は 12 施設 21 校だが、1 施設は第 1 期中に新しくできた学校であり、修築の対象とはしていない。よって、修築が行われたのは 11 施設 19 校となる。

2-1. 学校施設修築

- 学校施設修築

第 1 期に各学校運営委員会が優先付けしたニーズに合わせ、19 校が使用する 11 の学校施設の壁、屋根、天井、窓、ドア、床、校庭、電気配線、水周りの修築を完了した。なお、学校の授業等に影響が与える可能性がある上記の修築作業を早急に完了させるため、校庭の花壇類の建設のみ実施時期をずらすこととしており、現在、その建設位置の選定や測量等を学校と協力して行っている。

2-2. 清掃と維持管理

- 学校運営委員会主導の学校清掃活動の支援

清掃状況のチェックリストを作成し、校長等と協力してチェックリストを利用した清掃状況モニタリングを各学校で実施した。今後、学校側と必要に応じてチェック項目の修正等を行いながら（各学校の施設や清掃の状況に応じて、チェックポイントの追加、削除など）、継続的なモニタリングによって清掃状況を確認する。改善の必要があれば、対策を学校と共に検討する。それと並行して、各学校の自主的な定期チェックを促す。

- 衛生教育研修

11 月に実施することを検討していたが、子ども会の活動や各学校の清掃キャンペーンと連動させて実施することでより大きな成果を得られるよう、2 月に延期した。研修カリキュラム、研修資料原案は作成しており、研修の準備は整いつつある。

2-3. 学校備品供与

- 学校備品（家具類）の供与

備品供与前に、各学校との話し合いと実地調査によって黒板や棚、机、椅子などのニーズを確認し、供与数量を確定した。12月31日現在、業者の選定、調達契約の締結を完了しており、12施設(21校)合計で子ども用机・椅子277セット(新品購入)、子ども用机・椅子283セット(既存の机と椅子を修理)、黒板84枚、教員用椅子69脚、教員用書類棚24架、修理ツール(17種)12セットなどの供与を1月に行う予定となっている。

3. 学校における「子どもの参加」の促進

発言する子どもが少なかった活動開始時に比べて、現在では多くの子どもが学校美化のためのアイデア等を発表するようになっており、十分とは言えないまでも学習環境に対する子どもたちの意識が高まったと同時に、子ども会の活動を活発化させることができた。また、合計331名の教員や学校運営委員へのワークショップを実施したことで、学校関係者の「子どもの参加」への理解が深まった。

3-1. 子ども会を通した子どもの意識向上

ー 子ども会の活動支援

9月より学校が新年度となったことに伴い、新しいメンバーで子ども会を再開した。これまで、21校で各学校3回ずつの描画やディスカッションセッションのファシリテーションを行っており、子どもの参加人数は延べ1,568名(男子655名、女子913名)となっている。描画においては、理想の学校(第1回)、学校の嫌いな点や学校環境を悪化させる子どもたちの行為(第2回)といったテーマで描いた絵を子どもたちが発表し、3回目以降の子ども会では、2枚の絵を比較しながら、学校を良くするために何が必要であるかを話し合った。このように、活動は子どもが楽しめる内容であると同時に、学習環境に対する意識向上や自らの意見を表現することを促す要素を含めており、子どもたちが学校改善活動等へ参加し、意見を発表する力を養う場としている。今後、子ども会が子どもたち全体の意見を代表できるように働きかけていく。

3-2. 教員の理解促進

ー 「子どもの参加」ワークショップ実施(教員向け)

各学校の教員を対象とした半日2回のワークショップを全21校で実施し、合計259名の教員が子ども参加の意義、概念、実践に関する理解を深めた。講師は第1期にて研修を受講したトレーナーと教員代表が務めた。ワークショップ後に実施したアンケート調査では、「研修に満足しているか」という問いに対し、平均89%の参加者が「満足している」、9%が「ほぼ満足している」と回答しており、研修内容の理解などに関する質問についても同様の回答が得られた。

3-3. 学校運営委員の理解促進

ー 「子どもの参加」ワークショップ実施(学校運営委員向け)

各学校運営委員会の委員を対象とした半日2回のワークショップを全12の委員会で実施し、合計72名の委員が子ども参加の意義、概念、実践に関する理解を深めた。講師は第1期のToT研修受講者が務めた。ワークショップ後に実施したアンケート調査では、「研修に

	満足しているか」という問いに対し、平均 96%の参加者が「満足している」、4%が「ほぼ満足している」と回答しており、研修内容の理解などに関する質問についても同様に良い回答が得られた。 3-4. 教育局職員の理解促進 - 「子どもの参加」ワークショップ実施（トレーナー向け） 8 月に 5 日間のワークショップ実施を予定していたが、レバノンから招聘予定である講師のバスラ出張が困難であったため、4 月または 5 月に実施することとした。現在、ワークショップカリキュラムや資料の原案作成が完了し、詳細内容の調整、編集を行っている段階である。 - 「子どもの参加」セッション実施（教育局職員向け） 上記 1-2 のワークショップ内での実施が計画されているため、1-2 と同様の理由により、2 月または 3 月に実施することとした。 3-5. 親・地域住民の理解促進 - 子ども会イベントの実施 親や地域住民を巻き込んだイベントを 10 月に実施することを予定していたが、新たに子ども会に参加する子どもたちの意識が向上し、イベントの企画に積極的に加わることができるようになるのを待ち、1 月から 2 月にかけて実施することとした。
(3) 達成された効果	申請書には 2014 年の事業完了時の指標を記載しており、現時点では正確な効果を表すことは難しいが、指標に対する進捗は下記の通り。 - 9,766 人の子どもが通う学校施設（12 施設 21 校）の物理的環境が改善され、重大な修復ニーズは減少した。（包括的な施設実地調査により評価する予定だが、現時点では実施していない。） - 12 施設 21 校に、関係者が協力して学校改善に取り組む仕組みが立ちあがり、学校運営・改善のための活動を行っている。（学校運営状況調査は、現時点では実施していない） - 21 校に子ども会が設置され、学習環境やその改善に対する子どもの意識、改善活動への参加が向上しつつある。（意識調査は現時点では実施していない） - 259 名の教員、72 名の学校運営委員、延べ 1,075 名の親や地域住民が「子どもの参加」についての理解を深めた（質問紙を利用した理解度調査は現時点では実施していない）。
(4) 今後の見通し	今後、計画の通り、学校関係者が参加・協力して行われる活動が学習環境の改善につながるように、組織や関係者、活動の更なる強化や活動の活性化に取り組む。具体的な活動としては、「1. 様々な関係者の意識向上と協力強化」として、学校運営委員会による学校改善計画を立案・実施するための活動、教育局職員の意識向上を目的とした「学校運営委員会を通じた学校改善」ワークショップの実施、親・地域住民の学校改善活動に対する意識向上を目的とした 2 回目の学校改善活動報告会の開催、また、「2. 学習環境の整備」として学校花壇建設や学校備品供与を通じた環境整備、衛生教育研修などを通じた学校施設の清掃・維持管理強化、さらに「3. 学校における子どもの参加の促進」として、子どもの意識向上を目的とした啓発ノートの作成などの子ども

	会支援、子どもの参加トレーナーの知識向上を目的とするワークショップ実施、親・地域住民の理解促進を目的とした子ども会イベントを実施する。なお、いくつかの活動に遅れが生じているが、実施に向けた準備は進めている。また、いくつかの活動の実施時期が変更されたが、他の活動への影響を出さずに、事業期間内に全活動を完了できる見込みとなっている。
--	---